

「〇」(わ) 1994年号
平成4年(1992年)11月創刊
平成6年(1994年)8月発刊
年1回発刊予定通刊第3号



編者：武蔵大学剣友会
編集協力：松井邦夫
伊藤文憲
丸山潤一郎
河村あづさ
国岡あかね
井口典子
発行：武蔵大学剣友会



昭和三六年四月の武蔵大学体育連合会剣道部発足と同時に、伊能敬先生は初代剣道部長として剣道部員とともに幾多の日々、幾多の稽古とともに過ごしていただきました。
伊能先生は、これまで三五年の長きに渡って部長を務めてこられました。この度大学人文学部教授を退任されると同時に、剣道部長の任も後任伊藤先生に引き継がれることとなりました。そこで去る平成六年六月一日、伊能敬先生、伊東成康先生剣道部長引継懇

◆伊能敬先生、伊藤成康先生

剣道部長引継懇談会◆

伊能敬先生に聞く

談会が、江古田「むらた」にて行われました。

出席者は以下の通りです。

伊能 敬前部長

伊藤成康新部長 (経済学部助教授)

関根日吉名誉師範

荻生敬一武蔵学園専務理事

長谷川 勲剣友会会長 (S三七卒)

岡田行一剣友会副会長 (S三九卒)

土屋一徳元監督 (S三九卒)

日暮道生 (S三九卒)

水木征二剣友会副会長 (S四三卒)

渡辺欽五監督 (S四五卒)

松井邦夫副幹事長 (S四五卒)

大竹茂雄剣友会会計担当 (S五六卒)

河村あづさ剣友会新聞担当 (H二卒)

井口典子剣友会新聞担当 (H四卒)

中島久典剣道部主将

梶谷浩子女子責任者 (敬称略)

会では、関根名誉師範を始め、荻生先輩、長谷川先輩などから伊能先生と剣道部にまつわる思い出や感謝の言葉、また新部長になられる伊藤先生への激励の言葉を頂きました。こうした中で、

わずかな時間ではありましたが、伊能先生よりお話を伺うことができました。

「剣道部部長を務めて三十五年。剣道を好きな人が私以外にいなかったこともあり、長谷川さんからの勧めに二つ返事で引き受けました。何の気負いもなく、やるだけやろうと自然体で引き受けたのです。ただ一つ旧制高校からのよい伝統を大切に引き継いでいきたいと考えていましたね。

旧制高校時代の剣道部は、いわゆる



体育会っぽさのないところが特徴でした。つまり先輩後輩が、強権的な関係ではなく、いい意味で上下の関係を大切にされたものであることでした。もちろん道場では先輩部員にしごかれることもあるわけです。しかし剣道を離れば、自分たちの学生生活をともに豊かにしていく仲間でもあるわけです。今の剣道部にもその伝統は守って欲しいと強く願っています。

部長を引き受けてからというものの、数々の試合や稽古、その他部員たちとの出会いはどれをとっても印象深いもの。特にこれと言ってあげることはできませんね。あえて言えば、創部からの関根先生や各先輩のご助力もあり東都大会での優勝も回数を重ねるようになったころでしょうか。部員も最も多く、道場がとて狭く感じられたものです。現在は、部員の確保に腐心する状態ではありませんが、それでもこれまでの伝統を忘れずとにかく一生懸命続けていくことが大事だと思います。

今でも非常に残念に思うのは、私自身、病気のために十分に稽古ができなかったこと。しかし、関根先生、旧制高校剣友会の諸先輩、大学剣友会の先輩たちのご指導ご助力を仰ぎながら、我剣道部の輝かしい栄光の歴史に微力ながら参与できた私は、幸せものであると思います、感謝の気持ちで一杯です。あとを引き継いでくださる伊藤先生には、自然体でただ精一杯務めて頂ければと思っています」

剣道部長を引き継ぐにあたって

「剣道部のように世代にこだわらず、人と人が結び付いていくことができる場がある、それはとても素晴らしいことだと思います。」

私自身は、剣道経験者ではありません。ただ、全く縁がなかったわけでもありません。早くに亡くなった父が、剣



右、伊能先生 左、伊藤先生



関根先生

道をやっており、幼心にもそれが自慢であったことを覚えています。

今回、剣道部長の大任をお引受することになりました。未熟ではありますが、今は、自分自身に何ができるかを考え、伊能先生のおっしゃる伝統を守りながら一生懸命務めるつもりです」

(伊藤成康新部長)

伊能先生のこと

「私は最初高校の監督を依頼されて来たのですが、何時の間にか大学で教えるようになりました。伊能先生との付き合い合いは、それから約三五年のお付き合いになります。私はがさつな性格ですが、伊能先生のご指導でここ迄やってきました。今後はお顔を出して頂くだけで結構ですから、健康に留意されて、剣道部を見守って下さい」

(関根名誉師範)

達人インタビュー

今回の達人

土屋一徳先輩

(昭和三九年卒業)

ここは若者のごった返す街、渋谷。ハチ公前の人だかりがいつも増して活気づいて見えるのは、今が金曜の夜だからだろうか。待ち合わせの時刻の十九時を東急デパートの時計が指したその瞬間、オーラとも言うべき途方もない存在感を醸し出すスーツ姿の男性が若者をかきわけて私の目の前に突然現れた。そう、その方こそ今回「達人」として登場して頂く土屋一徳先輩その人であった。

二人は何かを引き寄せられるかのごとく居酒屋へとなだれ込み、インタビューは始まったのである。



インタビューアー(以下Q) カンパニー。先輩、この度は七段合格おめでとうございます。会社でのお仕事も大変だと思えますが、いつ稽古をされていたのですか。

土屋先輩(以下A) 会社は羽田にあるんだけど、そこで会社関係の人と稽古をしたり、空港警察の稽古にも入れてもらったり、新木場にある警視庁本部の道場にもよく出かけてしごいてもらっていますよ。そこは全日本出場経験者などそうそうたるメンバーがずっと顔を並べて、こんなに恵まれた環境はめったにない。自分でも図々しい



とは思ったけど、貪欲に稽古をつけてもらいました。おまけにお風呂まで一番先に入れてもらって、俺って本当に

に図々しいよなー。

Q そんな現役バリバリの方々のうちの稽古はきつくありませんでしたか。

A その道場は八面とれるほど広いんだけど、準備体操のかわりに三十メートルの距離を一回の切り返しで三往復、そしてそれを五回するんだ。あれだけでフラフラになるよ。だけどここで稽古できるだけでもありがたかったから、「きつい」とか言ってもらえなかった。

Q 今だから言える苦労話がありますか。

A 今度の七段は五回目でやっとそれたんだけど、それまでの数年間は関根先生をはじめ、本当にいろいろな方々のお世話になりました。三回目に落ちた時、空港警察の助教さんから「土屋さん、昼休みの二十分間『打ち込み』やりましょう」と誘って頂いて、三カ月間休まずやりましたよ。当然その間は昼飯抜きだったねー。

それから、剣道専用の手帳を会社用とは別に用意することをアドバイスして頂きました。そこに細かなことでも

書き込んでいった。だから、通勤途中でもこの手帳を見ることでイメージトレーニングできたんだ。

Q なんとも頭の下がる思いです。では、次に剣道における今後の夢を教えてください。

A そうだねえ、もっと上の段位を狙うことももちろんだけど、学連の審判員になることかな。審判は反則を取るのではなくて、おこさせないようにうまく試合で運ぶことが大切だと思うんだ。とても難しいことと思うんだけど、是非ともチャレンジしてみたいと思ってるよ。そして、武蔵からの学連審判の道を自分が切り開いて、後輩の紙谷君や渡辺君にも引き継いでもらえればと思ってる。

Q 武蔵剣道部OBの一員として、私も応援します。是非頑張ってください。話は変わりますが、今、剣道以外になさっているスポーツはありますか。

A ゴルフとマラソン、そして海に素潜りして貝などを取っていますよ。特にマラソンは好きで、この前も、山中湖一周を一時間ちょっとで走ってきました。

Q ものすごいバイタリティーですね。私も見習わなければ・・・では、最後に現役の剣道部員に何かアドバイスがありましたらお願いします。

A 武蔵の良いところは、皆それぞれ一生懸命やっているところ。今後そのところを大切にしてもらいたい。そして若者らしく、短い時間で能率良く

考えながら稽古をしてもらいたい。

試合を見てみると、武蔵は「一本のきめ方」がもう一歩。そこらへんを勉強すると、きっと今以上の成績を上げられると思う。私もたまに大学に行かせてもらうけど、せっかく一時間以上もかけて行くんだからチャラチャラした気分では稽古はできない。たとえ初段の学生でもとてもいい剣道をする人がいる。そんな時はその人の真似をしてみてもいいと思う。学生の方々も遠慮なくどんどんかかってきてください。そして一緒に強くなりましょう。今度の東都大会では優勝狙って頑張ってください。

Q 本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。学生も先輩のガッツに負けじと頑張ると思います。



師範室

今年、七人の剣友会会員が入会しました。

社会人として、早半年が過ぎようとしています。会社での仕事ぶりやプライベート、社会人としての実感などを伺いました。

▼大森雅美さん

(株式会社中央総合教育研究所勤務)

先日、昇段審査を受けました。実は、土日に何度か同期を誘って稽古をしていたのです。結果は残念ながら不合格。三段を取るまでは、できるだけ道場に通うつもりです。

勤務先は、小中学生の学習塾です。私は、受付を担当しています。小中学生を相手にコミュニケーションをうまく図っていくことは難しい。また、父兄、特にお母さんの相談を受けたりもします。塾通いについて、いろいろ問題が取り沙汰されていますが、仕事の中で考えさせられます。

まだまだ社会人としての実感はわいてきませんね。会社では、よい同僚に恵まれました。将来的には、日本語教師になりたいと考えています。そのため、通信教育で勉強中。少しずつ自分の夢に近付いています。

▼河辺真利子さん
(板橋区立美術館勤務)

今年の一月末にようやく就職が決まりました。この決定は、今まで自分がやってきたことがすべてうまく繋ぎ得た結果だと思っています。武蔵大学に入学したこと、剣道部に入ったこと、美術工芸史演習を学んだこと。これらが自分の履歴となり、それを評価されたのだと思います。自分なりに充実した学生生活でした。関わった方々皆さんにお世話になりました。ありがとうございます。

現在、学芸員の補助として勤務しています。作品をお貸しくださった作家の方への応対や展覧会のカタログ制作の手伝い、看板のデザインもやります。仕事のすべてが楽しくて仕方ありません。少しでも暇を見つけて美術館に行くことが目下の楽しみ。いずれは大好きなシャガールの作品を見るためにフランスへ行きたいと考えています。

▼高橋一誠さん

卒業後、剣道部に顔を出すと去年まで一緒に稽古をしていた先輩が、「先輩どうぞ」と座布団を出してくれたり、戸を開けてくれたり。なんだか、申し訳なく思ってしまう。

振り返ってみれば、部員不足で、部の運営自体が大変でした。二年の夏合宿前に怪我のため入院したことがありました。その自分に、「主務をやれ」と

いきなり言われた時はびっくり驚いたものです。当時主務だった同期が退部してしまっただけのため

のピンチヒッターになったわけです。最初五人の男子部員がいましたが、残ったのは二人。OB、先生方にもずいぶんご心配かけました。それでも、それなりに楽しかったように思います。これから剣道は続けるつもりです。また道場にもできるだけ足を運びたいですね。



▼平野京子さん
(プラス株式会社勤務)

現在システムエンジニアという業務に配属されています。入社当初は想像もしていなかった部署。「私にできるのかしら」と不安にかられる毎日でした。今は何もかもが勉強です。思考方法も、ちゃんと物事を整理して、順序立てることが重要。一人前に設計やプログラ

ミングできるようになることが目標ですね。

会社が終わると真っ直ぐ家に帰る日々が続いています。土日は、会社の同期とあったりしますね。仕事もそうですが、会社自体も楽しいです。新しい友人、新しい先輩、上司と出会い、そして新しい飲み大屋も覚えました。自分自身の保険証がある、それが社か会人としてまず一番に実感することです。自分で生活していく、自分で責任をとる。毎日とても充実しています。

▼三浦史枝さん
(三信電気株式会社勤務)

週末自宅に戻って親の手料理を食べる、それが今のところの楽しみでしょう。毎日新しいことばかり。覚えなければならぬことがたくさんあるのにちんぷんかんぷん。回りの先輩に助けられて、少しずつ仕事を覚えつつあります。日々緊張の連続で、会社が終われば家に帰って御飯を食べて寝るだけ。まだ余裕はないですね。大学とは

別に、新しい人たちとの出会いに、楽しい日々でもあります。

今実感するのは、大学の四年間が役に立っているということ。自分が成長できた学生生活があって、今の社会人としての自分があるのだと思います。多くの人に気付けられ、助けられ、自分が大きくなれたのだと、本当に感謝しています。

▼若狭弘毅さん
(キューピー株式会社勤務)

福岡支店営業部に仮配属になりました。十月まではとりあえず研修ということで、現在はまだ見習期間です。工場でのライン業務や先輩社員について顧客先を回るOJTでの営業の勉強。仕事をすると言うよりまだまだ遊ばせてもらっている感が強いですね。学生時代と違って朝早く起きて、夜遅く帰る。それを毎日規則正しくやっていくことに「自分は社会人なんだなあ」と感じます。なかなか剣道部の同期と会う機会がありませんが、この夏休みには、東京で仲間と一緒に飲むつもり。毎日寮の同期と飲んでますが、それはまた違ってうまい酒が飲めそうです。



平成元年秋から六年三月まで約四年半にわたり剣道部監督を務めていただいた笹川敏之先輩（S六二年卒）が、この度勇退されました。そして新監督に渡辺欽吾先輩（S四五年卒）が就任されました。そこで去る四月二十五日に新旧監督に四谷「越後路」起こし頂き在任中の苦労話や、今後の抱負などお話し頂きました。

監督交代

新旧監督に聞く

■監督の大任大変ご苦労様でした。まず、四年前に監督になるきっかけはどんなことからですか。

「牧野さん（S五十年卒）から引き継いだ訳ですが、卒業してからも大学のすぐ近くに住んでいまして、あまりやる事もなかったので安易に引き受けてしまいました」

■一番の思い出は何ですか。

「監督を引き受けて一年目に男子から全

日本出場という大きなプレゼントをもらい、京都へ行った事でした。この時は、何と幸せな男だろうと思いました。そして、次の年は女子が全日本出場。これらは“つき”も確かにありました。が、合宿などで厳しい稽古をした賜物だと思っています」

■監督をやっていて苦労したことは？

「部員の数が後半減ってきて、男子などは、団体戦も組めない程でした。日曜日の稽古を中止させてリフレッシュさせるなど工夫をしましたが、減少傾向はしばらく続きました。又新旧師範の交替期でもあり、試合のオーダーの決め方などで多少悩んだこともありまして」

■監督をやった良かったなと思ったことは？

「もし監督を引き受けなかったら、上、下三年位の方たちとしか知り会えなかったと思います。監督をやっていたおかげでいろいろな先輩とのつながりが出来て、多くのことを学ぶことができました」

■学生に何か望むことがありますか？

「武蔵の剣道部に入ったらぜひ剣道を好きになってほしいと思います。好きであればいろいろな工夫が出来ると思うんです」

■ちょっと監督という事柄から離れませんが真谷先輩（S四六年卒）のところ

で修業することになったそうです。今年の一二月でいまままで勤めていた会社を退社いたしました。三月から真谷さん

（真谷剣道具店）のところで防具制作の修業を始めました。以前からやりたかったことで、やっと夢が実現しました。将来、郷里の石川に戻って防具屋を開業したり、剣道の道場を開けたらいいなあ…と思っています」

次に、新監督の渡辺さんにお聞きします。まず、今回監督をお引き受けになったきっかけはどういうことだったのでしょうか。

「すぐということはないかもしれませんが、もうそろそろ三十路ですからね。出来るなら希望はあります。もう少し待って頂ければお知らせ出来るのではないかと思っています。皆さんの知っている方かも知れません」

「最近六段になってから何か自分を育ててもらった剣道部にお役に立ちたい、貢献したいという気持ちが高まってきました。また人生を重ねて来て、正しい事は正しいと言える様になってきた事も監督を受ける上で自分にとって重要でした」

■それは楽しみですね。もし決まったら剣友会新聞紙上で大々的に取り上げさせてもらいます。

■今後、監督として何かやってみたいことはありますか。

さて、最後に新監督の渡辺さんにパトタッチにあたって何か一言ありますか？

「自分たちが学生の頃、当時の長谷川監督（S三七年卒）を見ていて自分も挑戦してみたいと思っていました。長谷川さんの精神を生かしてこれから監督としてやっていきたいと思っています」

■学生達に望むことは何でしょう。

「学生に次の三点を強調していきたい。一、姿勢を正しくすること。二、初太刀を大切にすること。三、残身をとること。」

「学生に望むことは何でしょう。これらは剣道のみならず人生にも通じると思います。それに付け加えますと、四年間続けること。将来につながる剣道を心掛けること。」

■本日は、どうもありがとうございました。渡辺監督のこれからのご健闘をお祈りいたします。

「本日は、どうもありがとうございました。渡辺監督のこれからのご健闘をお祈りいたします。」



先輩！ちょっとお話を聞かせてください。

今回は、昭和五十年に卒業された、田中（旧姓北山）礼子さんに登場していただきます。ご多忙中、電話でのインタビュー、電話のむこうではお嬢さんの声も聞かれました。

ご卒業されてから二十年近くになられますが、近況をお教えください。

「実は、最近大学に伺うことが多いのですよ。と言いますのも、私の在籍していた社会学科の同窓会名簿を作る話がありまして、そのお手伝いをさせていただいているものですから。一回生から四五回生まで、今集まっているのは約一三〇名ぐらいになるでしょうか。名簿を作るための人探しにでんでこ舞い舞い。剣道部で、社会学科に在籍してらした方はご連絡いただけると助かります。また、今年の九月にむけて体連のOG同窓会開催の企画もあり、こちらにも参加させていただいています。本当なら道場にも伺わなくちゃと思っ

ているのですが」
子育てや家庭の仕事以外でもご多忙でいらっしやいますね。以前は勤めていらっしやったとか。
「卒業後は、マーケティングリサーチや本の出版といった仕事に携わっています。結婚後も今風に言えばサテライ

ト・オフィスといいますが、自宅で同じ仕事をしていました。、仕事を離れて九年になりますね」
北山先輩は、女子部員の中でも創草期に入部していらっしやいますね。しかも先輩を含めて同期の女子先輩は全員初心者でいらっしやる。

「そうですね。同期は高木さん、細淵さんの三人。細淵さんとは同じ高校の出身。田中さんや臼井さんに勧誘されて二人で道場に見学にいきました。一週間やって嫌だったら止めればいいわと軽い気持ちだったんですね。それが一つ上の荒井誓子さんの凛々しい白袴姿に、私もやろうという気になったわけですよ」

「剣道自体が性格にあっただけでいいから、各先輩が摺り足から、手のうちから丁寧な教えてくださいました。厳しいと言えは厳しいのでしようね。風邪が熱があっても、『稽古をすれば熱は下がる』といわれ掛り稽古でしごかれたり。風邪はなおりませんでしたけど（笑）」

確かに、稽古後は汗をかいて一時的に熱はさがりますね。
「卒業してから何年かは、旧制OBの荻

生先輩の衆議院道場などで稽古をさせていただき、そのほかでも朝稽古に参加するなどしていました」

「継続的に同期会をひらいていますね。同期だけでなく、上下の代でも声を掛け合って会っています。初代女子部員の矢倉さんのお宅では水炊きをしたりして。こうした長い付き合いができるのも剣道部ならではのいいかしら」

上の女子の先輩方には、なかなかお会いする機会がありませんが、人生の先輩として、いろいろお伺いできればと思います。数年前から、現役女子部員が主催する「女子コンパ」が行われています。今年も開かれるようですよ。

「是非参加したいですね。結婚していらっしやる方にとっては、昼間や土曜日にしていただくと都合がよいのではないのでしょうか。現役の方やずっと下の代の方にお会いできるのは、とても楽しみですよ」

是非ご出席ください。部員たちも喜ぶと思います。
今日は長い間お話ありがとうございました。『女子コンパ』でお目にかかれることを楽しみにしております。

北山礼子さん（昭和五十年卒業）



2 昨年十二月十二日に開催された第四回学連剣友剣道大会に我剣友会から二チームが参加しました。Aチームは筑波大学とBチームは日本体育大学と対戦しました。結果は残念ながら一回戦で敗退しました。大会参加の会員は次の通りです。

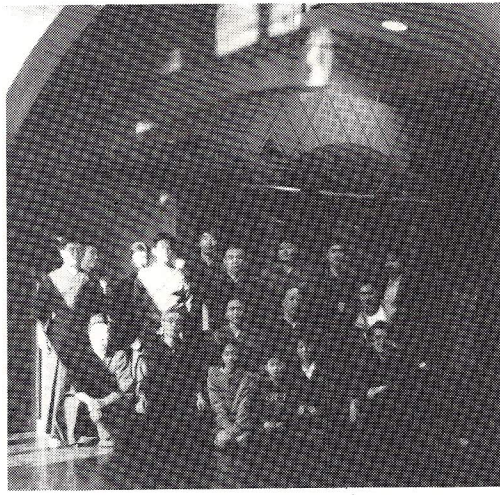
	Aチーム	Bチーム
先鋒	音 省一郎	濱岡 一充
次鋒	笹川 敏広	渡辺 賢了
三鋒	関根 剛	玉木 浩毅
中堅	紙谷 正之	小池 慎二
三將	真谷 繁美	笹岡 秀次
副將	緑川 毅重	坂井 達郎
大将	土屋 一徳	渡辺 欽吾

◇選手からのコメント◇

土屋 一徳

(S三九年卒)

対戦校が筑波大と知った時、私は良かったと思った。この大会は年令制限



付試合なので、多分相手校は往年の名選手と言えども、二十、三十年経てば、剣差も縮まっていくだろうと考えた。今回より母校から二チーム出場し、私がAチームの大將の大役（年令制なので）を仰せ付かりましたが、気負いはありませんでした。なぜなら、関根杯では実績「零」ですが、最近、年令制の団体試合に出場する機会が多く、しかも副将又は大將で出場するので、相手も各大学、警察、教員の元選手権者と剣を交える事がほとんどなので、有名校だからと言って驚いてばかりはいられないからです。

残念ながら一本負けしましたが、試合に臨んで、自分では「絶対に退らないで、積極的に打ち込んでいこう」と心に決め、終始冷静に戦えました。流石、相手は往年の名選手、無駄な動きが少なく集中力も卓越しており打突も的確で大変参考になりました。

関根 剛

(S五十年卒)

十二月十二日東京武道館、初めてこの大会に参加しその選手名簿を見て、けっこうメジャーな方が多いのに驚きました

法政の林、寺地兄弟、国士館の馬場、大東の鍛冶屋、池田、筑波の鍋山等、日本選手権で活躍中の名選手がずらりと名前を連ねているのですから。

さて、我々武蔵剣友会の方はどうなったかと申しますと、相手はなんと鍋山を擁す筑波大チームでありました。結果は七対〇と完封してしまいました

が、五人の選手が一本負けであり内容的には一方的ではなかったように感じました。この筑波大戦で私なりに感じたことは、筑波の名選手の手元のしっかりしている事、相手の動作に対して手元を上げない、突き技を使うことでした。

大会終了後、反省会を盛大に行い、次回大会の健闘を誓い合いました。また、二次会の席で成城大のOB諸兄と同席となり大いに親交を深めることができました。

笹岡 秀次

学連剣友剣道大会に出場出来る事、それ自体の重大なる意義とその名誉をすっかり忘れ、「一回戦は勝ち抜くぞ」と学生時代にタイム・スリップした私であった。

新入部員紹介

九四年度の新入部員男子を三名、女子を七名ご紹介いたします。この数年福島会津女子校が連続して一名が部員を含まず、今年新たに部員を期待する活躍が期待されます。

コメントは以下の順です。

- ①氏名
- ②段位
- ③出身・出身校
- ④学部・学科
- ⑤入部動機⑥一言

①大原利友

②式段

③東京・錦城高校

④経済・経営

⑤体力をつけて精神的にも強くなりました
⑥少しでも強くなれるようにがんばります。

①川津秀一朗

②参段

③東京・都立大泉高校

④経済・金融

⑤大学生生活を充実したものにするため
⑥三年間のブランクがありますが、気合いと根性で乗り切り切りたいと思います。

①金子勝洋

②初段

③埼玉・本郷高校

④経済・経済

⑤心身の充実感を得るため
⑥がんばります。

①斎藤光代

②式段

③埼玉・武蔵野高校

④人文・日文

⑤大学で初めから真剣に取り組んでいきたいと考えて
⑥四年後にはたくましい女に心身共に





なりたい。



- ① 下田由紀
- ② 参段
- ③ 千葉・木更津高校
- ④ 人文・日文
- ⑤ 九年目の成り行きと、負けず嫌いな性格のため
- ⑥ 高校卒業時、「剣道なんかやめてやる」と断言したはずなのに……。大学四年間にいろいろなることに挑戦したいです。

- ① 渡部かな子
- ② なし
- ③ 福島・会津女子校
- ④ 人文・社会
- ⑤ 何か新しいことを始めたかった
- ⑥ 剣道は始めたばかりですが、すべてが新鮮で充実しています。

- ① 水谷成克
- ② 式段
- ③ 静岡・伊豆中央高校
- ④ 人文・日文
- ⑤ 入学式直後のオリエンテーションで女子先輩のミニスカートに魅かれたため（事実です）
- ⑥ 熱海の出身です。伊豆・湘南方面のことならおまかせください。

- ① 永井栄巨
- ② 式段
- ③ 神奈川・浅野高校
- ④ 人文・欧米
- ⑤ 友達をつくるため
- ⑥ 剣道部にはいって忙しい毎日です。
- ① 坊野勇一
- ② 初段
- ③ 千葉・稲毛高校
- ④ 人文・日文
- ⑤ 剣道をやりたかった
- ⑥ がんばります。

information

■ OG 会費年間 3000 円に改定 ■

先日来、会員の皆様にご案内をしておりますように、年会費の徴収がやや不調になっております。学生への援助や会員への連絡など、年間約120万円が必要です。

しかし、ここ数年年収は80万円程度で、今後は援助等相当額を削減しなければならない状況です。

そこで会費未納入の会員には1万円以上の納入をお願い致します。

尚、昨年の総会でOGの終身会費を廃止し、年会費3千円以上に規約改定されましたので併せてお知らせ致します。

- ① 山元 剛
- ② 式段
- ③ 神奈川・逗子開成高校
- ④ 人文・日文
- ⑤ 剣道が強くなるため
- ⑥ 剣道だけでなくいろいろなことを学んでいきたいとおもいます。よろしく願います。

(五十音順)



編集後記

剣友会新聞「わ」も今年で3号目になりました。今号も多くの方に、お話を伺わせていただくことができました。皆様お忙しい中、本当にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

来たる9月10日には、伊能先生を囲んでの「感謝の集い」がございます。皆様是非ご出席ください。

「わ」に関するご意見ご希望がございましたら下記までご連絡ください。

〒150 東京都渋谷区広尾4-2-20-403
井口典子まで